

## 令和4年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の実践、校訓「明朗・友愛・誠実」を生かした人間力の育成。
- ・夢と志を育てる教育プログラムを実践。元気、やる気が出て夢中になるものを見出す。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、優れた教養と学力を備えた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操を育み、自立心のある人の育成を図る。

### 2 中期的目標

#### 1 教育力の質向上 学修成果(できるようになる)・修学成就

##### (1) 授業の質向上、学修成果の可視化(〇〇ができるようになる)

- ・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践。
- ・3時間/週の授業外学習100%を目標に学習習慣の定着を図る。
- ・教育デジタル化の急速普及対応。

##### (2) 卒業率96%以上

- ・入学した生徒全員を卒業させることを目標に、高校生活満足度調査の結果を検証、今後の課題を検討し、改善策を全体で共有する。

##### (3) 教員のスキルアップ

- ・教科の研修やICT機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。

##### (4) 進路実績の向上

- ・特別進学Ⅰコースを中心に、特別進学Ⅱコースからの合格者も含め、関関同立20名と産近甲龍80名(延べ数)の合格を目指す。

##### (5) 課外活動・クラブ活動の充実

- ・課外活動を充実させ、昨年度のクラブ入部率52.4%を70%以上となることを目指す。

##### (6) グローバルな視点での教育の実践

- ・異文化理解、人権、平和などのテーマを通して、世界規模で物事を考える発想を身につけさせる。

#### 2 組織安定

- ・教育力の向上と積極的な広報活動により、生徒数1000名を堅持できるように努める。

#### 3 教育環境(施設・設備等)の充実・愛用(安全安心 快適)

##### (1) 校内生活および学習環境の整備

- ・新校舎での生活がスタートし6年目を迎え、整備された学習環境を積極的に活用する。
- ・学園食堂「Tama Café」メニュー・販売時間、憩いの場「Tama Square」の有効活用(学生・生徒が、使い易く居心地の良い「快適空間」を目指す)。
- ・人工芝グラウンドの積極的な活用(夜間照明)。

##### (2) 生徒の自主的な活動によるエコの実践

- ・生徒会との協働作業によるエコ活動の実施。

##### (3) 施設の愛用(遊休施設の復活再生)・立教館活用

#### 4 地域共生 社会に愛され 成長する学園

##### (1) 地域貢献活動の実践

- ・全校生徒を対象とした地域周辺の美化活動の実践を継続する。
- ・市民フェスティバル、交通安全啓発運動など地域主催行事へ積極的に参加する。
- ・地域連携公認プログラムの推進。

##### (2) 地域連携公認プログラムの推進

- ・地域連携公認プログラム「歴史・科学の青少年講座」、「卓球・バレーボール・サッカー教室」(通年)を地域の子どもたちが多数参加できるように継続して実施する。

#### 5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識) 各校園(職員 学生 生徒 園児)の相互協力 尊重

- ・併設の大学、短期大学、幼稚園との連携を密にし、学園総合力を向上させる。

##### (1) 内部進学の実践と促進(学年30%以上目標)

- ・具体的には大学、短期大学との連携で進路意識を高めるプログラムを実践する。

##### (2) 子息女兄弟姉妹の入学促進

##### (3) 併設校園との連携教育の推進

- ・保育進学コースについては、短期大学教員による週1時間の保育に関する知識、技能を身につける授業を実施する。
- ・併設幼稚園では、複数回保育実習を実施する。

##### (4) 創立80周年(2022)記念事業の推進チャレンジ

##### (5) 藤蔭会活動の活性化(80周年(2025)記念行事の推進)

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教育の質向上 学修成果(学力・スキル・キャリア)の向上・修学成就	(1)授業の質向上	(1) 年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進捗、考查結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・授業アンケート(7月:1学期期末考査後実施)の結果を基に各教員、教科内で検証「わかる授業」の実践に取り組む。 ・学外のICT研修などにも積極的に参加し、公開授業を通し、内容を教科で共有する。 ・3時間/週の授業外学習100%を目標に学習習慣を定着させ、学力向上に繋げる。	(1)授業アンケートの総体平均値が75点となること。  ・3時間/週の授業外学習を100%に近づけること。	(1) 授業アンケートでの平均が81.5点(昨年度80.2点、一昨年度78.1点)年々平均値は上昇している。ICT機器を使った授業が普及し、「わかる授業」が展開されている。(○)  ・授業外学習3時間/週(1日平均30分以上)している生徒は、61.6%(昨年度59.3%、一昨年度57.0%)であった。年々上昇しているが、より100%に近づけるには、さらなる進路、教科による組織的な取り組みが必要。(△)	充分評価できる。(○)  家庭への呼びかけも必要。(△)
	(2)卒業率96%以上	(2) 卒業率96%以上を実現する。 ・高校生活満足度調査(10月:2学期中間考査後実施)については、職員会議で結果を報告の後、関係部署で検証し、今後の課題を検討、改善策を全体で共有する。	(2) 卒業率96%以上を実現する。  ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率が65%以上であること。	(2) 卒業生は356人(入学時383人)、卒業率は93.0%であった。(昨年度卒業率93.2%)(△)  ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率74.6%(昨年度70.5%、一昨年度69.9%)で年々上昇している。(○)	卒業率向上のため努力に期待する。(△)  生徒が充実できる学校生活を送っていると判断できる。(○)
	(3)教員のスキルアップ	(3) 教科の研修やICT機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内学外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。	(3) 教科の研修、外部模試活用研修、人権研修など実施すること。	(3) iPadの使用が始まり、授業等での活用実践報告や、外部講師を招いた講習会などの研修を行った。また、教員間でも情報を交換しながらICTのスキルアップを図っている。(△)	良好と評価でできる。(○)
	(4)進路実績の向上	(4)進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学年との連携を基に指導を行う。	(4)卒業生徒の進路決定率100%。 ・関関同立20名と産近甲龍80名以上の合格(延べ数)。	(4) 進路決定率97.5%(△)(昨年度98.2%、一昨年度97.7%) 関関同立5名合格(×)(昨年度8名、一昨年度2名) 産近甲龍41名合格(×)(昨年度56名、一昨年度20名) 特Iコース3年在籍者が少ないこともあって合格者数は伸びなかったが、特IIコースも含めた戦略的な取り組みが必要。	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。(△)
	(5)課外活動・クラブ活動の充実	(5)生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・生徒会行事について見直しを進め、生徒会担当教員で検討の上充実させる。	(5)クラブ入部率70%以上であること。	(5) クラブ入部率47.7%(昨年度52.4%、一昨年度52.7%)統計の取り方に難があった可能性があるが、生徒会を中心とした働きかけがもっと必要である。(×)	入部率の向上に努力が必要である。(△)
	(6)グローバルな視点での教育の実践	(6)英語検定を積極的に受験させる。 ・異文化交流や異文化理解できる行事を検討する。	(6)英語検定を積極的に受験させる。 ・総合的な探究の時間に異文化理解の講座を設ける。	(6) 年間受験者662名 2級合格5名 準2級合格41名(△) 受験者は増えたが、準2級合格者をどれだけ2級合格へ導くことができるのか、対応策を検討・強化する必要がある。  (昨年受験者533名 2級合格15名、準2級31名合格 一昨年度246名 2級合格5名、準2級23名合格)	2級合格者の増加に期待する(△)
				・海外青年協力隊を経験している教員の講演会やグローバル体験プログラム、オンライン英会話やイングリッシュキャンプを実施。(○)  ・生徒会では文化祭においてユニクロの「服のチカラプロジェクト」に参加し、1年生を中心に古着の提供を呼びかけた。(○)	グローバル教育は必要(○)

2 組織安定	組織安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会、体験入学のプランを策定し、全教職員で内容を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度の2545名を上回る。</li> <li>新入生 350 名、生徒総数 1000 名を堅持すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2765名(昨年度2545名)コロナ禍の状況を踏まえつつ、可能な限り通常に戻して実施。新たに「入試問題の解説」をプログラムに入れ好評を得た。(○)</li> <li>令和5年4月の生徒総数は 1008名(昨年度 997名 一昨年度 1066名)新入生 401名(昨年度 344名、一昨年度 304名)専願合格者だけでも定員をオーバーし、併願合格者を含めた入学者は予想を大きく上回った。この結果に安堵することなく、何が奏効したのかを分析し、今後も維持していく必要がある(○)</li> </ul>	<p>良好と評価できる。(○)</p> <p>良好と評価できる。(○)</p>
3 教育環境(施設・設備等)の充実・愛用(安全安心・快適)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)校内生活および学習環境の整備</li> <li>(2)生徒の自主的な活動によるエコの実践</li> <li>(3)施設の愛用(遊休施設の復活再生)・立教館活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)「Tama Square」でのクラブ発表などを促進する。「立教館」の活用促進。</li> <li>(2)生徒会との協働作業によるエコ活動を実施する。</li> <li>(3)クラブ活動、学校行事での活用を促進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用の状況</li> <li>エアコン夏25℃、冬22℃に設定</li> <li>活用の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)吹奏楽部の「お花見コンサート」「たそがれコンサート」、ギター部・ダンス部・和太鼓同好会の「ゲリラライブ」を複数回実施。(○)</li> <li>(2)教職員の意識改革と生徒会を中心とした全校生徒への働きかけが必要。(△)</li> <li>(3)立教館では、「総合的な探究の時間」でクラスが活用したり、体験入学で「書道体験」の会場として利用した。(○)</li> </ul>	<p>活発な取り組みが評価できる。(○)</p> <p>エネルギー問題に目を向ける努力が必要である。(△)</p>
4 地域共生社会に愛され成長する学園	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)地域貢献活動の実践</li> <li>(2)地域連携公認プログラムの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。1 回目は全校生徒(希望者)対象で6月上旬実施。2回目は2年生対象に実施予定(11月)。</li> <li>(2)地域と連携し、青少年講座・スポーツ教室を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史・科学の青少年講座を実施する。</li> <li>卓球・バレーボール・サッカーのスポーツ教室を実施。</li> <li>地域の市民フェスティバルに参加する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)計画通り実施する。</li> <li>(2)予定通り参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)6月に予定していた美化ボランティアは雨天のため実施できなかったが、11月の2年生は予定通り実施することができた。(○)</li> <li>(2)地域と連携した青少年講座やスポーツ講座はほぼ予定通り実施することができた。ダンス部は「柏原市民フェスタ」「チアファミリーフェスタ」に参加。(○)</li> </ul>	<p>地域貢献、地域連携は非常に重要(○)</p>
5 各校園(職員・学生・生徒・園児)の相互協力・尊重 学園総合力の向上(学園ファミリー意識)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)内部進学の実現と促進(学年3割以上目標)</li> <li>(2)子息女兄弟姉妹の入学促進</li> <li>(3)併設校園との連携教育の推進</li> <li>(4)創立80周年記念事業の推進チャレンジ</li> <li>(5)藤蔭会活動の活性化(80周年記念行事の推進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。PTA 主催併設大学・短大見学会を実施する。</li> <li>(2)日常の教育活動を通して、本学園のファンを増やす。</li> <li>(3)大学・短大・幼稚園と連携し、担当者会議を行い、これまでの取り組み内容をベースに、課題や改善点を見だし、より良い取り組みを作り上げる(保育進学コース授業、保育実習など)。</li> <li>(4)各校園80年ワーキングチームを中心に検討する。</li> <li>(5)係教員と藤蔭会で検討を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>併設大学・短大への進学者 100 名以上。</li> <li>実施内容と生徒の満足度を基準とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)併設大学・短大への進学者数96名(昨年度90名、一昨年度105名)(△)PTA 主催併設大学・短大見学会は規模を縮小して実施。(○)</li> <li>(3)1年保育実習は幼稚園との相談を重ね工夫して実施することができた。(○)80周年記念事業として8月にキッズフェスタに替えて「遊びの天才を作ろうTAMA 遊び」を実施。他園の園児たちも来校し、好評を得た。(○)</li> <li>(4)80周年記念事業では7月に「Tama Cup!!」(モルック・ドッジボール大会)、11月に「たまたま音楽祭 2022」に高校生、クラブ員も参加。(○)</li> </ul>	<p>大学・短大と連携を深め相互努力が必要である。(△)</p> <p>良好と評価できる。(○)</p> <p>良好と評価できる。(○)</p>

## 4 学校教育自己診断の結果と分析

### 学校教育自己診断の結果

#### (1) 建学の精神、校訓

##### ・高い評価の項目

「建学の精神『感恩』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」 (教員 91.5%)

「建学の精神『感恩』が生徒によく理解されている」 (保護者 93.3%)

##### ・低い評価の項目

「校訓『明朗 誠実 友愛』が保護者によく理解されている」 (教員 44.7%)

#### (2) 学習・進路

##### ・高い評価の項目

「生徒が希望した進路におおむね進んでいる」 (教員 91.5%)

「進路指導面で、学校は保護者へ、きめ細かく情報を提供している」 (教員 83.0%)

「進学補講は進学希望者に応じて手厚く実施されている」 (保護者 93.3%)

##### ・低い評価の項目

「進学補講の参加者は熱心に参加している」 (教員 57.4%)

「外部の模擬試験のデータを進路指導に役立てている」 (教員 57.4%)

・令和4年度中に学級閉鎖となったクラスもあったが、Zoom 授業へも比較的スムーズに移行でき、生徒たちの「学び」を止めることはなかった。

#### (3) 課外活動・クラブ活動

##### ・高い評価の項目

「クラブ顧問は日々の活動に対し、十分な指導を行っている」 (保護者 86.7% 教員 89.4%)

「文化祭、体育祭において適切な指導を行っている」 (保護者 100% 教員 85.1%)

##### ・低い評価の項目

「生徒会活動は活発に行われている」 (教員 68.1%)

・コロナ禍ではあったが、生徒会を中心に創意工夫を凝らして文化祭・体育祭を実施することができた。校外学習、修学旅行や学習合宿なども一定の制限はあるものの再開することができたことは、教育活動において大いに意義あるものであった。

#### (4) 生徒指導・教育相談

##### ・高い評価の項目

「制服の着用、頭髪等身だしなみを整えるよう指導を徹底されている」 (保護者 100% 教員 95.7%)

「生徒指導において、家庭と緊密な連携が出来ている」 (保護者 93.3% 教員 95.7%)

「問題行動が生じたときの指導体制が整備されている」 (教員 91.5%)

##### ・低い評価の項目

「教育目標「授業を大切に！」に基づき「ベル席」が十分に実践できている」 (教員 70.2%)

「教育目標「笑顔で挨拶！」が十分に実践できている」 (教員 72.3%)

・本校の教育目標を教員間で周知徹底するとともに、今後も家庭との連携を大切に、面倒見の良い教育を実践していく。

#### (5) 情報公開

##### ・高い評価の項目

「ホームページ・Classi や広報誌等で学校の情報を迅速に公開している」 (教員 91.5%)

「個人情報保護法の観点から生徒の個人情報に関する管理について十分配慮がなされている」 (保護者 100% 教員 93.6%)

「学園広報(年間3通)、PTA だより、まがたま(年間各2通)を保護者はよく見ている」 (保護者 100%)

##### ・低い評価の項目

「子どもは本校が出す通知文等を保護者に必ず見せている」 (保護者 73.3%)

##### ・全体的な情報公開について

今年度、PTA 総会は実施したが授業参観は中止。塾対象説明会では授業を公開をした。授業参観を通して、学校や子どもの教育に関心を持って頂き、連携して教育活動を進めていきたい。

令和4年度は重点課題の1つとして、迅速なホームページによる内外への情報発信に取り組んできた。

Classi は導入3年目となり、情報伝達ツールとしての利用は広がってきている。働き方改革の一環として Classi の「欠席連絡」機能を導入した。

#### (6) 施設・設備・その他全般

##### ・高い評価の項目

「施設・設備は充実している」 (保護者 100%)

「子どもをこの学校に入学させてよかった」 (保護者 100%)

「教員はチームワークがとれており、どの教員も一貫した対応をもらえる」 (保護者 86.7%)

「保護者や地域の要望・意見に対して、遅延なくかつ適切に対応や回答がなされている」 (保護者 86.7%)

「子どもに社会規範をしっかり教えている」 (保護者 86.7%)

## 5 学校関係者評価委員会からの意見

### 【評価された内容】

- ・授業アンケートの平均点が年々上昇しているところに、先生方が工夫を凝らした授業をされている様子がうかがえる。
- ・「学校生活の充実度」の肯定回答率が伸びているところ。
- ・共学校らしく、男女仲良く帰っているのをよく見かける。微笑ましい
- ・80周年記念行事についてはチラシでよく目にしたが、学園関係者だけではなく、外部の方々も参加するオープンな学園というイメージアップにつながったように思う。どんどん元気な学園、地域に溶け込んでいく学園になっていて、卒業生の保護者としてとても嬉しく思っている。
- ・80周年であったからなのか、食堂メニューも新作がたくさん出てきたり、学園(記念)グッズもあつたりと、とても努力されていることが感じられる。
- ・修学旅行は良かった、楽しかったという話を聞いた。修学旅行が形を変えて実施できたことは非常に喜ばしい。
- ・少しでも美化ボランティアができたことはうれしい限り。地域への貢献活動として多くの住民は高校生の活動に期待を寄せている。
- ・Tama Square が象徴的なのだが、丸みを帯びたデザインが各所にあつて、何となく心が和む学園になっている。
- ・少子化の中で新入生が増加しているのは、先生方の日々の活動が評価されているのだと思う。

### 【改善が必要な内容】

#### 〈登下校〉

- ・朝、教育大前駅へ向かう時、途中の橋脚工事で道幅が狭くなっている箇所では多くの生徒が通るためすれ違うこともできず、しばらく待たないといけない。
- ・登下校時のマナーが悪い。スマホを持ちながら歩いている、自転車の並走など。
- ・先生方が毎日、通学路で注意・指導され、努力されている姿を見て、頭の下がる思いを持っているが、保護者によるしつけも必要なのではと感じている。
- ・総合体育館から出て大声をだして通行してる時がある。(大学生かもしれないが)

#### 〈学習〉

- ・授業外学習3時間/週の生徒の割合は上昇傾向にあつて評価できるが、目標の100%を掲げるなら、特別な対策が必要ではないか。
- ・英語検定の2級合格者数が下がったことは残念である。来年度の再起を期待する。
- ・進路決定率がわずかではあるが下がったのは気になるところである。浪人してより上位の大学を目指すのならば理解はできるが、安易にフリーターの道を選んではいけないか。
- ・関関同立、産近甲龍の合格者の低下は気になるところである。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。